

ラピドゥス株式会社「ロシア鉄道」上級副社長スピーチ

本日は多くの方々にお集まりいただき感謝申し上げますとともに、今回のセミナーがロシアと日本のビジネスマンの協力関係の発展に寄与することを祈念いたします。

ロシアと日本の協力は良いテンポで伸びています。例となるのがロシア鉄道が子会社経由で提起した大陸とサハリンと北海道を結ぶ光ケーブルプロジェクトで、このプロジェクトについてはちょうど一年前にプレゼンテーションをさせていただきました。10年前にトランステレコム社が鉄道に沿って光ケーブルを敷設するという使命をもって設立されました。そして先ほどネドセコフ次官よりお話がありましたように、現在この光ケーブルに沿って鉄道を敷くというプロジェクトの実現の可能性が生じてきています。このことがロシアと日本の間のインフラ・プロジェクト分野での協力がいかに将来性があるかを示しています。

2年前にシベリア横断鉄道について東京他でプレゼンテーションを行った際に我々が目指したのは、日本のビジネスマンの皆様にロシア鉄道が変化していることとその新しい可能性に目を向けてもらうことでした。ありがたいことに日本のビジネスマンはこれに素早く反応してビジネス戦略に反映し、その結果2007年から2008年にかけてロシア鉄道を經由する日本の貨物の輸送量が年30%を超えるテンポで伸びています。2008年6月にロシア政府は「2030年までのロシアの鉄道輸送発展戦略」を採択しました。この戦略の中でロシアの産業界が目標としていくべきこと、ロシアの輸送機械製造が目標にしていくこと、外国のパートナーとの国際協力の目標が明確に示されました。そして経済の中でひとつのセグメントとして2030年までの運輸分野における企業活動の見通しが明確に示されました。この戦略は2つの段階から成り立っており、第一段階は2015年までの期間にロシアの鉄道の在来線の大幅な近代化と老朽化した車両をすべて新しいものに更新するというものです。第二段階は2016年から2030年までの期間に鉄道網をダイナミックに拡大するもので、新規に建設される鉄道の総延長は2万kmを超える予定となっています。そのうちの1,500kmは時速300kmを超える高速鉄道で、1万kmは時速200kmまでの在来線の特急路線となります。在来線の特急化は首都モスクワを中心としたロシアの欧州部のみならず、沿ボルガ地域、中央シベリア地域、極東地域にも拡大します。さらに機関車23,000台以上、客車22,000台以上、貨車約100万台の新規購入を予定しています。このように近代化され輸送能力が増強されたロシアの鉄道網は、アゾフ海・黒海地域、北海・バレンツ海地域、太平洋地域といったロシアの外への出口となる海の地域へと結ばれます。

このような意味で極東・シベリア地域は大変おもしろい地域となってきます。それは新しく開発される産地を結ぶ鉄道路線が作られることになり、バム鉄道の増強が図られ、港へのアクセスが大幅に改善されることとなります。我々の戦略では、バム鉄道の能力増強と平行してシベリア鉄道の速度の大幅アップとコンテナ輸送・旅客輸送の改善を図ることになっています。このようにロシアの極東と中央部を結ぶそれぞれ特色をもった2つの路線が形成されることとなります。ひとつはバム鉄道で9,000 t以上の重量貨車を積んだ列車が走行し、もうひとつは急行コンテナ輸送・旅客輸送を主体とするシベリア鉄道です。極東では時速160kmの在来線の特急をウラジオストク～ハバロフスク間で走行させる計画です。シベリア鉄道はコンテナ輸送の面で大幅な躍進を遂げており、2007年には輸送量が50%増加し、1日の走行

距離が900kmというコンテナ輸送列車の走行を達成しています。すでにロシアの極東の港から西の国境までの9,000km以上の距離を11日間で走行することができます。しかし海路に比べたシベリア鉄道の優位性をさらに獲得するために、我々のパートナー、顧客はシベリア鉄道の速度をもっと上げることを希望しています。そして我々は「シベリア鉄道を7日間で」というプロジェクトに着手しました。プロジェクトの中で我々は組織的な改善を図り、技術面および設備の改善も図ることによって、2012年までに毎年コンテナ輸送の速度を平均して1日ずつ短縮していくことができると考えています。2008年にコンテナ輸送列車の1日あたりの走行距離を平均して820kmから910kmまで上げることができました。2012年には極東の港からロシアの西方地域、西ヨーロッパへ向かうコンテナ輸送列車の1日の走行距離を1,400kmまでスピードアップすることができます。このような目的を達成するために、まず駅の改修工事を行うこと、路線の中でボトルネックになっている箇所を解消すること、そして新型車両の導入を図っていきませんが、特にコンテナ輸送に最大限に能力を発揮できる機関車を導入していきます。これはコンテナ輸送の速度と重量の両立を実現していくものです。

コンテナ輸送を国際回廊を通じて効果的に行うために現在あるロジスティックス網の可能性を高める必要があり、貨物輸送に新たな質的価値を付け加える必要があるという観点から、我々は鉄道ロジスティックス・システム発展コンセプトを策定しました。これはシベリア鉄道沿いにロシア欧州部を中心に35の大型ロジスティックス・センター、40以上のコンテナ・ターミナル、複数の港におけるターミナルを建設します。当然のことながら輸送される貨物は100%の安全が確保され、途中で紛失することなく、IT機器を用いたトレースが完全に行われるようになります。

我々ロシア鉄道は、日本企業ならびにアジア太平洋地域のパートナーの皆様の要求を満たす水準まで自社の輸送レベルを引き上げることにより、コンテナ輸送がロシア企業向け貨物とロシアを経由して欧州へ向かうトランジット貨物の双方で大きな飛躍を遂げることを期待します。日本企業の皆様には自身の信頼できるパートナーを我々ロシア鉄道の中に見出していただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。